

セブンスデー・アドベンチスト教団



アドベンチスト

はらじゆく

August



「エサウの口もと」

東京中央教会長老 柳沼 時影

今、エサウの口もとにはレンズ豆の煮物の赤い汁が沢山ついています。そうでなくても毛ぶかい彼の顔は、ひときわ不潔に見えます。空腹感に耐えられなかった彼は

「長子の特権など、今の私に何になるう」
(創世記25章)

と言い放ちながら、弟のヤコブから取り替えにもらったそれをむさぼるように食べて立ち去ろうとしているのです。着せても食べさせてもくれない長子の特権を捨てるには、一時的に空腹感を満たしてくれるものであれば何でもよかったのです。

私たちは、初穂であられる主イエス・キリストを長兄とする神の子供です。世継ぎであり、神の誉れです。ところが、よくよく私たちの口元を見てご覧なさい。なにか、赤いものが付いているのでは？

そうです。エサウと同じく豆の煮物の汁です。神の子供の特権なんかいらぬよと言わんばかりに、ひどく天国の民でないまねをしているのです。

元来、長子は礼儀正しく親切です。お客様への出迎えはだれよりも早く、体を低くしてもてなしを尽くします。寛容は彼の心を語り、仕え人が仕事をまとめなかつたら夜おそくまで補い、長く耐え忍びます。家の内のことは勿論、外の事にまで共によるこび、共に悲しみます。

隣人の悪口を言わず、包みあげ慰めます。夜おそいに家のまわりを見て回る彼の足音を多くの隣人が聴き、彼は住み人の責任を彼一身で受けようとします。

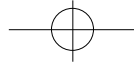
しかし、彼は少しも疲れを口にする事なく、不平も言いません。なぜなら、その家にあるすべてのものが彼のものだからです。

今、私たちの教会の一人びとりに必要なのは長子への認識です。招かれた教会の宴会に長子たるものがなく、無関心そうな顔ばかりいては、ここ原宿の住民たちは途方に暮れます。

私たちはいち早く長子の身分に立ち返り、門の前まで進み出て、主が送って下さる人びとを迎え入れなければなりません。聖霊と御言葉のうがい薬で口もとを聖潔にし(黙示録3:18)、もう二度と、長子でありながら長子でない姿は私たちに縁がないのです。

私たちの兄弟姉妹のなかに、だれか霊的ねむりをしている様子が見えたら、心から心配する意味で、あなたの口もとにエサウのおしるこがついているよ、と言ってさしあげる光景がほしいと思います。





「台風 - その試練と恵み」(沖縄だより)

千先 稜

沖縄の夏は、台風を抜きにしては語れません。沖縄を含む南西諸島は、台風の通り道として有名で、毎年夏、激しい大雨と強い風に見舞われます。そのため、家造りには独特の工夫が見られます。それは、「屋根瓦をしっくい止め、石垣で囲む」やり方です。昔からよく知られてきたこうした平屋の伝統的な家屋は、今では都市部から離れた地域や離島に多く見ることが出来ます。

台風がやってくると、人々は家から外に出ることをしません。学校や商店は早々と休みになり、交通手段はほとんど動かなくなります。県全体にわたって、生活機能がストップするので(そのため離島では、物資が届かないこともよくあります)。たまたま当地に滞在していて台風に遭った本州の人たちは、不用意に外に出て怪我をしてしまうことがあるそうです。

しかしながら、災害をもたらさずの台風は、一方で私たちに「水」という貴重な恩恵を与えてくれます。実に年間2000ミリを超える降水量があり、私たちの生活を支えているのです。ですから、台風の少ない年は大変です。沖縄は

「地形的に細長くて面積が小さいため、水量の豊かな川がない」ので、(最近では水道設備がかなり普及してはいるものの)屋根に貯水用のタンクを置いて水不足に備えている家が多く見られます。人々は、台風の恐ろしさも知っていますが、それ以上に、台風が水という恩恵を与えてくれることも、よく知っています。

私たちの信仰生活もまた、台風のように強大な試練に会うことがあります。大災害が起きると、言い知れぬ不安を覚えますが、しかしイエス様という大きな屋根の下にとどまっていれば安全です。厳しい経験を通して、逆に信仰が強められ、神の支えと導きを確信することができます。さらに、試練は、私たちに耐え忍ぶことをも教えてくれます。

「神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである。」(詩篇46:1)

このことを覚え、日々歩いていきたいと思えます。(SDA沖縄三育中学校教諭)



聖句と私

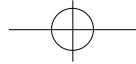
「ヘブル人への手紙」12章5~7節、11節

「私の子よ、主の訓練を軽んじてはいけません。主に責められるとき、弱り果ててはならない。主は愛するものを訓練し、受け入れる全ての子を打ち打たれるのである。あなた方は訓練として耐え忍びなさい。神はあなた方を子として取り扱っておられるのである。いったい父に訓練されない子があるだろうか。」

日々色々な経験をします。「何で?」と、理解できないような時、この聖句を読みました。神様は、子として私を扱って、今訓練をしている。だから耐えなくてはいけません。しかしそういう思いとは反対に「何で私だけが」と否定的な感情もあり、分かっているけど悲しい思いにもなります。しかし、神様はちゃんと分かっている、11節に「すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。」「試練を耐えなさい。」と言うだけでなく、あなたの思いは分かっているよ、と言う神様の思いが含まれているように思いました。一人でも分かってくれる人がいれば、気持ちが楽になることってないでしょうか。神様の励ましと、優しさに触れた聖句でした。

加藤 良子





原宿彩彩

おミゴト!

— 聖章暗唱大会 (7/13)

樋口恵美子さん (Psalms [詩篇] 121を英語で)、曾根田政子さん (マタイ 28)、辻野康弘さん (ローマ 5・6他)、今勝さん (黙示録 21)、金町教会長老・林台圭さん (列王紀上 17・18)、お見事でした。「聴衆」が息をひそめるかのようにして耳を傾けるなか、あるいは清澄に、あるいは朗々と、それぞれ決して短くない章句を淀みなく唱い上げる見事なパフォーマンス。「凄い迫力!」というヤング教会員の声しきりでした。

輝きるとき — VBS 終わる

「最後まで走り抜こうではないか」というパウロの言葉通り、25人のスタッフと、8人のお母さん方が一丸となって、全力で3日間を完走しました。そして最善を尽くした後の実はどんなに美味しいかを、味わわせて頂きました。安息日学校からVBSへ、VBSから安息日学校へと繋がっていく第一歩を踏み出せたのではないかと実感しています。これをいかに子どもクリスマスへ繋げていくかが次の課題です。そして、対象を「子どもたちの保護者にまで拡大すること」も次の目標です。テーマは「かがやけ子どもたち」でしたが、文字通り子どもたちは輝きました。お陰でスタッフの顔まで輝きました。正にパウロの言う通り、信仰は実践の中でのみ強まる、でした。

30名の子どもが与えられることを祈って頂きましたが、30名が与えられました。安息日学校へ来ている子どもが17名も参加したこと、これ

は半数を祈ったの結果でした。初めてVBSに参加した子どもが8名、教会へ初めて来た子どもが5名と、何もかも天よりの祝福を十分に頂いた今年のVBSでした。(田村尚子)

『私たちの介護は誰が担うのでしょうか』

— 第3回家庭セミナー (7/27)

「65歳以上の高齢者の占める率が7%から14%に達するのにフランスが114年以上かかったのに、日本はわずか24年!」「日本は高齢化対策の“実験場”として世界の注目の的... 講師・上田健先生の衝撃的なお言葉の数々! 臨床心理士・特別養護老人ホーム「シャロ - ム東久留米」施設長として奉仕中で、国内外の実情にお詳しい先生の講話は具体的な事例の連続で、説得力十分な90分でした。「高齢化社会の光と影 ~ 誰もが避けては通れない道 ~ 」と題してのこのセミナー、ユーモアをたっぷり織り込みながらの、

しかし深刻な実情の紹介に、一同笑ったり考え込んだり。「年をとるとは様々な“喪失”をどう受け留めるかということ。“喪失”の連続の中で、『失われぬもの』を心の中に持っている人が遅く生きてゆくのです」というコメントが強く心に残りました。

何を得し今日ぞ大輪のダリヤ濃し
つつがなく生きて風鈴吊りにけり
生きつぎて思ふは何ぞ白ゆかた (まり子)
朝露の脛に跳ね土流れけり
朝露に濡れゆく杜の蝉しぐれ (保夫)

俳句

チャペル サートの秋

日時: 8月31日(土) 19:00開演 (18:30開場)

場所: 東京中央教会 礼拝堂

出演者: 古田真理 (ソプラノ)、藤井緑 (ピアノ)、森武靖子 (オルガン)

曲目 *ソプラノ: 夏の思い出 (中田喜直) 赤とんぼ (山田耕筰)

*ピアノ: 水の反影 (C.A. Debussy) Strange Meadow Lark (Dave Brubeck)

*オルガン: Piece d'Orgue (J.S. Bach)、Litanie (J. Alain)

入場料: 任意献金 (収益は、ADRAを通し、口唇口蓋裂医療チーム派遣のために用いられます)





バイブル豆事典

「旧約時代の楽器や音楽」

旧約聖書時代は、楽譜などない時代でした。文章としても音楽について具体的に描写した物はほとんど残っていません。しかし、ユダヤ教の伝統のなかに残っている物から当時の様子を探る努力は多くの学者によってなされています。また、考古学的発掘の中に時々参考になる壁画や、粘土板、楽器そのもの等が発見されることがあります。それらの研究の結果、詩編に書かれている琴や、笛、打楽器などはイスラエル独特のものではなく、エジプトやパレスチナの諸民族に共通の楽器であったことがわかってきました。たとえば、地中海地方で出土した焼き物の笛は、壁画などから、当時地中海全域で用いられていた笛と同じ物であることが確認されています。復元した物で音をだしてみると、意外にも、現在も民族音楽の中で使われている笛とほとんど同じ音で、音階も酷似していました。しかし、笛以外の楽器は、出土しても、音階や音程を正確に復元することが出来ず、実際のそれは、想像するしかありません。ただ、笛が現在まで同じように使われてきていることから考えて、旧約時代の楽器や音楽そのものが、現在の中東の民族音楽で使われている楽器、音階、演奏のスタイルにかなり近いものと推測されます。西洋のクラシックや、アメリカ、アフリカに始まったポピュラー音楽のスタイルに耳が慣れてしまっている私達には、中東の民族音楽はかなり異質な物に聞こえるかも知れません。しかし、よく聴いてみると、どこか日本の民謡や、グレゴリオ聖歌に共通したものをもっていることに気がきます。音楽の本質は意外に世界共通なのかも知れません。

(東京中央教会聖歌隊指揮者 及川律)

8月のスケジュール

- 8/ 1(木)~5(月) 全日本青年大会
PFC全日本キャンポリ -
- 8 / 3(土) [説] 板東洋三郎牧師 & 子供のお話
役員会
小羊クラブ 午後2時~
- / 10(土) [説] 花田憲彦副牧師
週報 & アドベンチストはらじゅく発送
- / 17(土) [説] 板東洋三郎牧師 & 子供のお話
讃美と証の会
小羊クラブ 午後2時~
理事会なし
- /24(土) [説] 板東洋三郎牧師 & 子供のお話
- /31(土) [説] 白石尚牧師 & 子供のお話
(預言の声ラジオ放送50周年記念礼拝)
チャペルコンサート 午後7時~

教会のホームページを開設しています。

<http://www.sda.gr.jp>

エデン ED園だより

余暇(レジャー)の語源となったギリシャ語スコレ(schole)、またラテン語のリセレ(licere)を辿ると、古代ギリシャ・ローマ時代には余暇は「体を鍛えること、学ぶこと、思索、祈りを行うなど積極的な活動を指すものであった」そうです。レジャー=遊びと直結してしまう固い、軽い(?)頭には、レジャーに祈りが含まれるとは意外や意外でした。今年も暑い季節がめぐって参りました。夏休みはどう過ごされますか? (雅)

発行：東京中央教会コミュニケーション部 * 発行人：板東洋三郎 * 編集人：前中靖司

[住所] 〒150-0001 渋谷区神宮前1-11-1 03-3402-1517

* スタッフ：久木田明夫・佐藤敏子・寺内雅子・芳賀洋・平山茂子・森武靖子・山口保夫

